

評価の観点	人間関係の形成	単元	自立活動 特別支援	実践日時	R1年度
-------	---------	----	-----------	------	------

本時のねらい	<p>全体：使う人のことを考えたホワイトボードの製作を通して、自分の考えを提案したり、仲間の考えを取り入れたりすると、よりよい製品ができることに気が付き、協力して製作することができる。</p> <p>生徒A：大きさや、使い方など、具体例を示して仲間に提案することができる。</p> <p>生徒B：仲間の意見を取り入れ、ホワイトボードを製作することができる。</p> <p>生徒C：使う人のことを考えたホワイトボードを考え、仲間に提案できる。</p>
--------	--

<主体的・対話的で深い学びにつながる指導について>

導入

【手立て①】 丁寧な作業を意識してホワイトボードを製作する。

- ・授業の始めに、作業表からそれぞれの作業内容と目標を確認し、見通しをもち作業を行う。
- ・安全確認を行い、相手との距離や周りにカッターナイフなど、危険な物が置かれていないかを確認させる。
- ・完成したホワイトボードを、シートがまっすぐ貼れているか、シートが浮いていないかなどを確認し合う。



展開

【手立て②】 どのようなホワイトボードにしたいか、仲間の意見を聞いたうえで製作する。

- ・相手意識がもてるように、「どんな工夫をすると、小学生はうれしいかな?」「自分だったらどんなホワイトボードを使いたい?」と問う。
- ・使う人の人数を確認し、具体的な数値を根拠として説明できるようにする。
- ・絵にして提案したり、写真を指差したりしながら説明をし、仲間がわかりやすいように説明できるようにさせる。



終末

【手立て③】 本時の学習を振り返る。

- ・本時の課題に対して、どのように取り組めたのかを振り返るために、学習した内容を工程表で確認する。
- ・丁寧に作ることを意識して取り組めたことを、作品をもとに確認する。
- ・使う人のことを考えて製作できた事実を確認し、価値付ける。

5 本時のねらいと本時の展開

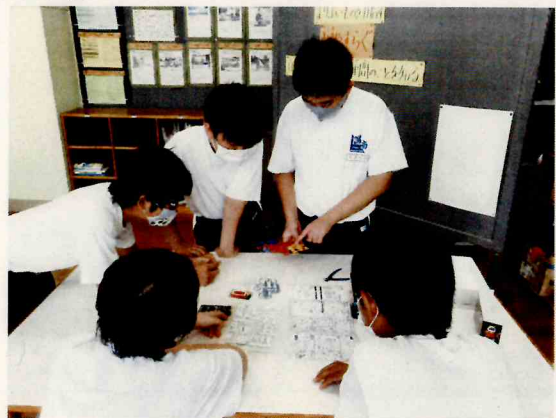
	生徒 A	生徒 B	生徒 C
<p>本時のねらいと個別のねらい</p> <p>使う人のことを考えたホワイトボードの製作を通して、自分の考えを提案したり、仲間の考えを取り入れたりすると、よりよい製品ができることに気付き、協力して製作することができる。</p> <p>学習活動</p> <p>1 これまでの学習を生かして、丁寧な作業を意識してホワイトボードを製作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> シートをまっすぐ切るためにしっかり定規で押さえる。 テープを張るためには協力することが必要だな。 <p>2 小学生からの要望を知り、本時の課題を知る。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>小学生が授業で使いやすいホワイトボードを考えてみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 小学生が授業で使えるようなホワイトボードにするためには色々な工夫が必要だな。 <p>3 課題に対して、話し合う。</p> <p>○提示資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生の人数 教室の様子（広さ、椅子機の配置）の写真 小学生からの要望 小学生は中学生に比べて身長が低いから大きさを工夫する必要があるな。 班の人数は何人なんだろう。 <p>【目標を設定する】</p> <p>4 どのようなホワイトボードにしたいか、仲間の意見を聞いたうえで製作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなの意見を取り入れてホワイトボードを作ってみよう <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までは丁寧に作ることを意識していたけれど、使う人のことを考えて製作したいな。【自己を振り返る】 	<p>大きさや、使い方など、具体例を示して仲間に提案することができる。</p>	<p>仲間の意見を取り入れ、ホワイトボードを製作することができる。</p>	<p>使う人のことを考えたホワイトボードを考え、仲間に提案できる。</p>
<p>支援や指導の留意点</p>			
<p>【1の場面の支援や指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに、作業表からそれぞれの作業内容と目標を確認し、見通しをもち作業を行う。 安全確認を行い、相手との距離や周りにカッターナイフなど、危険な物が置かれていないかを確認させる。 完成したホワイトボードを、シートがまっすぐ貼れているか、シートが浮いていないかなどを確認し、提出をする。 			
<p>【2の場面での支援や指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の小学生の言葉を提示し、課題意識をもたせる。 どのような場面で使うかを考えさせる。 			
<p>【3の場面での支援や指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵にして提案したり、写真を指差したりしながら説明をし、仲間がわかりやすいように説明できるようにさせる。 ホワイトボードなど、絵で表現できる材料を準備する。 			
<p>【4の場面での支援や指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間の意見をまとめ、具体的な大きさや形を絵に表す。 作業内容を決め、仲間が安心して作業ができるようにする。 			
<p>【5の場面での支援や指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な大きさや形を共通理解させ、作業内容を明確にして製作を行う。 かがやき学級にも提案ができるように、作業内容をわかりやすくする。 			

評価の観点	関心・意欲・態度	単元	技術 材料と加工 (特別支援)	実践日時	R2. 9. 26
本時のねらい	<p>【全体】: プラモデルの作成を通して、材料の加工に用いる工具の用途や特徴を理解しながら、意欲的に作業に取り組むことができる。</p> <p>【生徒A】: 自分が興味をもつ内容を仲間に丁寧に伝えながら、作業に取り組むことができる。</p> <p>【生徒B】: 交流学級の授業で学んだ工具の特徴を思い出しながら、作業に取り組むことができる。</p> <p>【生徒C】: 生徒Aから聞いた工具の用途や特徴を理解して、作業に取り組むことができる。</p> <p>【生徒D】: 交流学級の授業で学んだ工具の特徴を思い出しながら、作業に取り組むことができる。</p> <p>【生徒E】: 細かい手作業に意欲をもちながら、作業に取り組むことができる。</p>				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：教科の学習内容を加味した、学習素材の工夫】

生徒Aは、プラモデルの作成で使用するニッパーややすりなど、加工で用いる用具の扱いを得意としている。また、他の生徒もものづくりに対して意欲的な面をもつ。その生徒の様相をもとに、生徒Aに「参加する人数」「使用可能な金額」「活動の時間」を事前に伝えた。生徒Aは、他の生徒が見通しをもちやすいよう、プラモデルを活用する目的や手順などを丁寧に話すことができた。



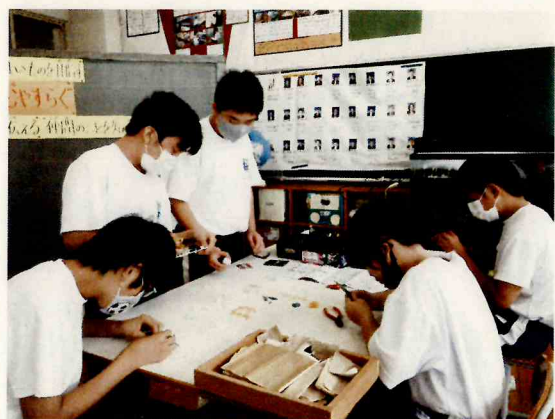
【手だて②：一人一人が円滑に活動を進めるための、ペアの設定】

生徒Cと生徒Eは、一人で作業を行う場合に自分で状況を判断しながら進めていくことに困難さがある。よって、活動を始める際には他の生徒に二人の状況を伝え、どのように取り組んでいくとよいか考えさせる場面を設けた。その結果、生徒Bは仲間の状況を踏まえてペアの設定を提案し、他の生徒もそれを受け入れて作業に取りかかることができた。

【手だて③：工具の特性を活用し、さらに質のよい作品を目指すための場の設定】

紙やすりは木材の角を丸め、表面を滑らかにする用途がある。一方、紙やすりは番号によって目地が異なり、目地の荒いやすりをを用いることで表面に細かい凹凸を作ることができる。

生徒Aは上記の特性を生かすと、作品にスプレーで着色をする際に、わずかに凹凸のある方がよいということを経験している。そこで、授業の後半で他の生徒にその内容を伝える場を設定し、これまで学習した工具を用いれば、質のよい作品を目指すことができることに気付かせた。



その結果、生徒たちは既習の工具の特性を関連付けると、さらによりよい作品を目指すことが実感できたとともに、次のスプレーによる着色に向けて、必要な部分に丁寧にやすりをかけるなど、意欲的に活動に取り組むことができた。

5 本時のねらいと本時の展開

生徒A	生徒B	生徒C	生徒D	生徒E
自分が興味をもつ内容を仲間と丁寧に伝えながら、作業に取り組むことができる。	交流学級の授業で学んだ工具の特徴を思い出しながら、作業に取り組むことができる。	生徒Aから聞いた工具の用途や特徴を理解して、作業に取り組むことができる。	交流学級の授業で学んだ工具の特徴を思い出しながら、作業に取り組むことができる。	細かい手作業に意欲をもちながら、作業に取り組むことができる。

学 習 活 動

支援や指導の留意点

- 1 生徒Aから、準備した用具とその目的を聞き、学習の見直しをもつ。
 - ・プラモデルの作成は、ニッパーややすりなど、技術の学習で用いるものが多い。勉強になるよ。
 - ・Aさんは、自分たちの経験に合わせて品物を選んできてくれた。ちよつと挑戦してみよう。【見直しをもつ】
- 2 本時の課題を設定する。

【1の場面の支援や指導】

事前にとどのような説明をすると、相手が意欲的に取り組めるか想像させ、話す内容を準備するように促す。	生徒Aの説明で出てくる工具の特徴について、正しく理解している姿を価値づける。	工具の使い方について確認を行いながら、自分ができるような作業内容を教師と確認する。	生徒Aの説明で出てくる工具の特徴について意図的に確認し、答えられた姿を価値づける。	これまでに説明で出てきた工具を用いたことがあるか問いかけながら、作業に見通しをもたせる。
---	--	---	---	--

【2の場面での支援や指導】

- ・全体の課題を確認した後、どのペアで作業を行うとよいか相談する際に、作業が円滑に進むようにペアを調整する。

用いる工具の特徴を知り、丁寧な作品づくりをしよう。

- 3 仲間と分担しながら、作業を行う。
 - ・一つ一つの部品は細かいが、仲間と少しずつ組み立てていくとなんだか楽しいな。【広げ、深める】

【3の場面での支援や指導】

- ・ペアと作業を行う際に、何に困っているか確認しながら、必要に応じて他の生徒が協力できるように声をかけたり、仲間の作業方法を見るように促したりする。

- 4 よりよい作品に仕上げるために工夫するところを話し合う。
 - ・ニッパーには「二度切り」という作業がある。この方が、部品の凸凹がなくなり、美しい作品に近づくよ。【つなぎ、問い続ける】

【4の場面での支援や指導】

作品をよりよく仕上げるために必要な工具を使い方を仲間を広げ、部品の凸凹がなくなり、美しい作品に近づける。	色の付きをよくする。たぬには、どの番号の紙ややすりを用いるとよいか理解しながら、部品の削る姿を価値付ける。	生徒Aの助言を受け、丁寧に組み立てていく姿を価値付け、さらに他の作業にも挑戦するように促す。	色の付きをよくする。たぬには、どの番号の紙ややすりを用いるとよいか理解しながら、部品の削る姿を価値付ける。	一つ一つの部品を丁寧に組み立てていく姿を価値付け、さらに他の作業にも挑戦するように促す。
--	---	--	---	--

- 5 本時の学習を振り返り、次の学習への見直しをもつ。
 - ・作品に色を付けるときにも、何か注意する点があるようだ。どんなことを気をつけたいかな。【振り返る】

【5の場面での支援や指導】

- ・生徒Aから、着色の作業には天候も左右されることを聞き、作業には安全性も考慮しなければならぬことを実感させる。
- ・作品づくりのためのために用いた工具の使い方を知り、作業に意欲的に取り組めた一人一人の成長を振り返らせる。

評価の観点	人間関係の形成	単元	自立活動 特別支援	実践日時	R3. 6. 24
本時のねらい	<p>【全体】: はし入れやのぼりの製作を通して、注文してくれた方のことを意識しながら、粘り強く、丁寧に作業に取り組むことができる。</p> <p>【生徒A】: 得意な裁縫を生かし、丁寧に作業したり、困っている仲間に声をかけたりすることができる。</p> <p>【生徒B】: 細かい作業であっても、丁寧に最後まで作業をやりぬくことができる。</p> <p>【生徒C】: のぼりを見る人がはっきりと文字が見られるように考えて、生地を切り取ることができる。</p> <p>【生徒D】: 細かい作業であっても、粘り強く作業をやりぬくことができる。</p>				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：活動の目的意識をもたせた導入の工夫】

はし入れ、のぼり製作を通して、一人一人に身に付けさせたい力がある。しかし、その活動が生徒の主体的なものではなくては、力は身に付かない。そのために、普段お世話になっている先生方からの注文という設定にすることで、「〇〇先生のために」という気持ちを引き出し、活動の目的意識をもたせたことで、主体的に作業を始めることができた。



【手だて②：一人一人の実態に合わせた作業内容】



細かい作業や裁縫が得意な生徒、そうでない生徒という。そうした中で、一人一人の生徒が自分の力を生かして、「できた」という達成感を味わわせ、自信をもたせることで、さらに自分の力を高めていきたいという次への意欲につながる。そのために、一人一人の実態に合わせて、適切な作業内容を設定した。また、生徒の不安に寄り添うことを大切にし、うまくできたところや丁寧に粘り強く取り組んでいる姿を褒めて、価値付けた。その結果、作業を終えたときに、拍手し合って喜ぶ姿につなげることができた。

【手だて③：一人一人のよさを紹介する場の設定】

作業を通して、一人一人のできた事実を基に、仲間に完成した作品を紹介した。また、その裏側には、使う人を思う気持ちや最後まで丁寧にやり抜こうとする気持ちなどがあることに触れ、自己有用感をもたせるようにした。さらに、一人一人のそうした作業がいい商品をつくることにつながることや、作業ができたことに自信をもたせられるように教師から価値付け、次の作業に繋げるようにした。



本時のねらいと本時の展開

本時のねらいと個別のねらい	生徒A	生徒B	生徒C	生徒D
<p>はし入れやのぼりの製作を通して、注文してくれた方のことを意識しながら、粘り強く、丁寧に作業に取り組むことができる。</p>	<p>得意な裁縫を生かし、丁寧に作業したり、困っている仲間に声をかけたりすることができる。</p>	<p>細かい作業であつても、丁寧に最後まで作業をやりぬくことができる。</p>	<p>のぼりを見られる人がはつきりと文字が見られるように考えて、生地を切り取ることができる。</p>	<p>細かい作業であつても、粘り強く作業をやりぬくことができる。</p>
学 習 活 動				
<p>1 ひびき・かがやきシヨップで注文してくれたい先生方を知り、今日の作業内容を知る。 ・○○先生が注文してくれたんだ。○○先生が、気持ちよく使ってもらえるように、丁寧に、心を込めて作りたいな。 ・まっすぐに、同じ幅で縫わないときれいに仕上げることができないな。がんばろう。 【見通しをもつ】</p>	<p>【1の場面の支援や指導】 ・ひびき・かがやきシヨップで販売するはし入れを注文してくれた先生方を紹介することで、日ごろお世話になっている先生方の顔を思い浮かべ、その人のために心を込めてはし入れやのぼりを作りたいたいという目的意識をもたせる。 二枚重ねた生地の表側だけに刺しゅうを施すという難しい作業を担当すること、よりよい商品をつくらうとす意識にする。</p>	<p>「できそうかな」と声をかけるとき、不安な点を聞き出し、1つ1つ解決して、できそうだという気持ちにする。</p>	<p>作業の手順を説明し、自分でできることと教員が手伝えることを相談して決めて、その過程で、自分もできそうだという気持ちにする。</p>	<p>「できそうかな」と声をかけるとき、不安な点を聞き出し、1つ1つ解決して、できそうだという気持ちにする。</p>
<p>2 本時の課題を設定する。 注文してくれた先生が気持ちよく使ってもらえるように、丁寧に作業をしよう</p>				
<p>3 仲間と分担しながら、作業を行う。 ・ここがうまくいかないな。○○さんに相談してみよう。 ・まっすぐ縫うことができた。あと少しだから最後までやりきりたいな。</p>	<p>【3の場面の支援や指導】 ・同じ作業を行う人と場所を近くにしたり、教員が近くにいたりすることで、仲間同士、相談しやすい環境にしたり、作業に集中させたりする。 工夫して製作しているところを褒めることで、いい商品に仕上げようと丁寧に、粘り強く取り組む姿を価値づける。</p>	<p>返し縫いなど、細かい作業を大切に取組んで、いろいろな1つ1つの作業が気持ちよく使ってもらえるように工夫する。</p>	<p>困っていることはないかと思いに声をかけることで、見守られて作業できることにすきて、また、きれいにカットできているところを褒めることで、自信をもたせる。</p>	<p>集中できなくなつたときに、丁寧に縫うことができているところなどを褒めることで、自信をもたせ、最後まで作業をやりきらせるようにする。</p>
<p>4 本時の学習を振り返り、次の学習への見通しをもつ。 ・最後まで集中して取組んでよかったな。 【振り返る】</p>	<p>【4の場面の支援や指導】 ・集中して、丁寧に粘り強く取組んだ一人一人の姿を紹介し、そうした姿が製品に表れていることを伝える。また、そうした1つ1つの作業が、気持ちよく使ってもらえることにつながることを押さえる。</p>			